

はじめに

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040

(1) 自治基本条例に基づく、市民と市のまちづくり 「市民が『幸せを生きる』まちをめざして」

1 自治基本条例の考え方

市民と市が共に進めるまちづくり

市民と市が信頼関係を育み、それぞれの役割と責任を果たしながら、共に考え、共に作り、共に実行することで、市民一人ひとりが幸せや豊かさ(ウェルビーイング)を実感できるまちづくりを進めていくことを基本としています。

条例がめざす「幸せを生きる」

条例は市民一人ひとりが、福知山を誇りに思い「幸せを生きる」ことを願い市民が自ら考え、行動し、まちづくりに参画することを大切にしています。

まちづくり構想ではこの理念を踏まえ「市民一人ひとりの幸せにつながるまち」をめざします。

2 条例第16条とまちづくり構想

条例第16条では市長が、総合的な市政運営の指針として基本的なまちづくりの構想を策定することを定めています。

まちづくり構想では、自治基本条例に定める自治の4つの原則である「人権尊重」「男女平等」「情報の共有」「参画と協働」を踏まえ、市民と市が共に福知山の未来を考え、共に取り組むまちづくりを進めます。

条例が定める自治の4原則

人権尊重

男女平等

情報の共有

参画と協働

3 「まちづくり構想」の構成

プロセス重視の計画策定

市民と共に「考え」「作り」「実行する」という共創のプロセスを最も大切にしています。

福知山の将来像を共有する

「市が取り組む内容」と「みんなで取り組む内容」の双方向から将来像の実現をめざします。

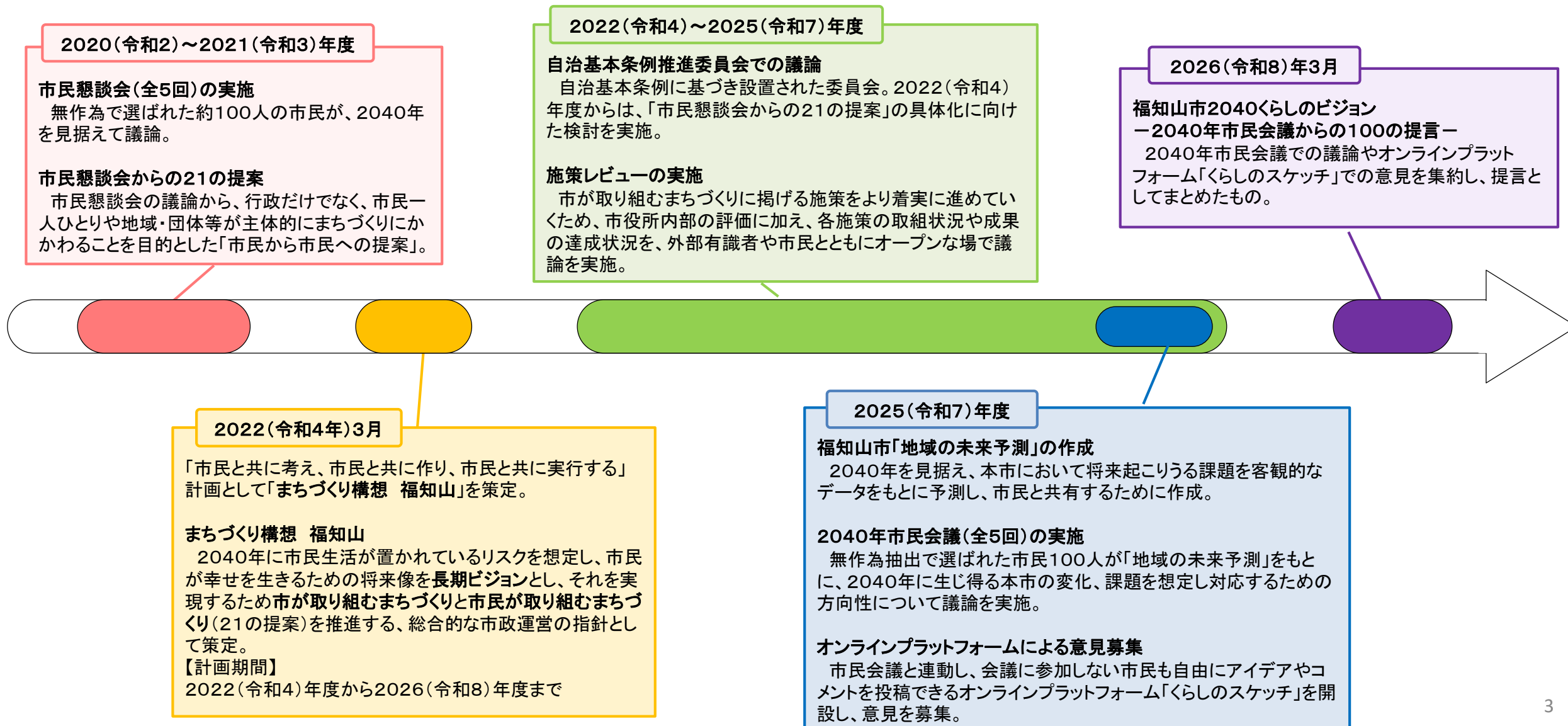
大切にするプロセス

共に考える

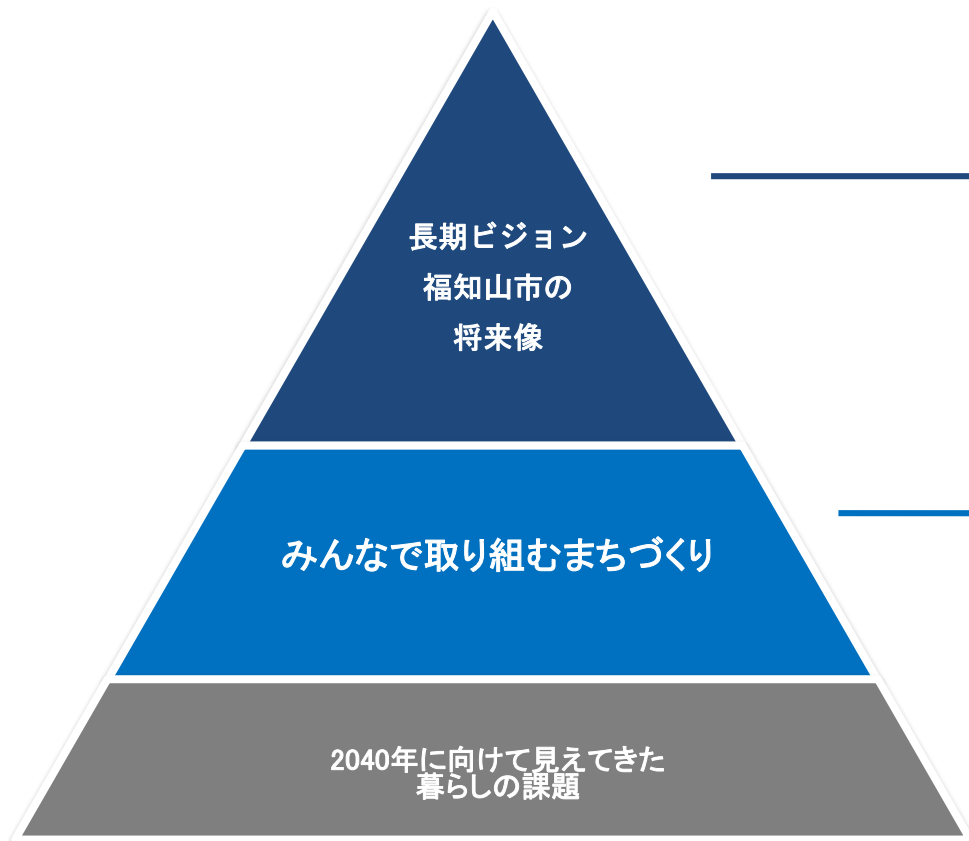
共につくる

共に実行する

(2) これまでの取組



(3) まちづくり構想の全体像



長期ビジョン（2040（令和22）年の将来像）

65歳以上の高齢者人口がピークを迎える約15年後の**2040（令和22）年**を見据え、「**地域の未来予測**」、**2040年市民会議の提言**から見えてきた暮らしの課題を踏まえながら、福知山市がめざす将来像を示します。

みんなで取り組むまちづくり

将来像の実現に向けて、分野ごとに**今後5年間（2027（令和9）～2031（令和13）年度）**に実施する施策を示します。取組の進捗や成果を把握するため、「**成果指標（KPI）**」を設定します。

将来像の実現には市の取組だけでなく、市民一人ひとりや地域、多様な法人・団体の主体的な行動が欠かせません。市民懇談会からの21の提案や自治基本条例推進委員会などで寄せられた意見を踏まえ、市民と市が共にまちづくりを進めます。

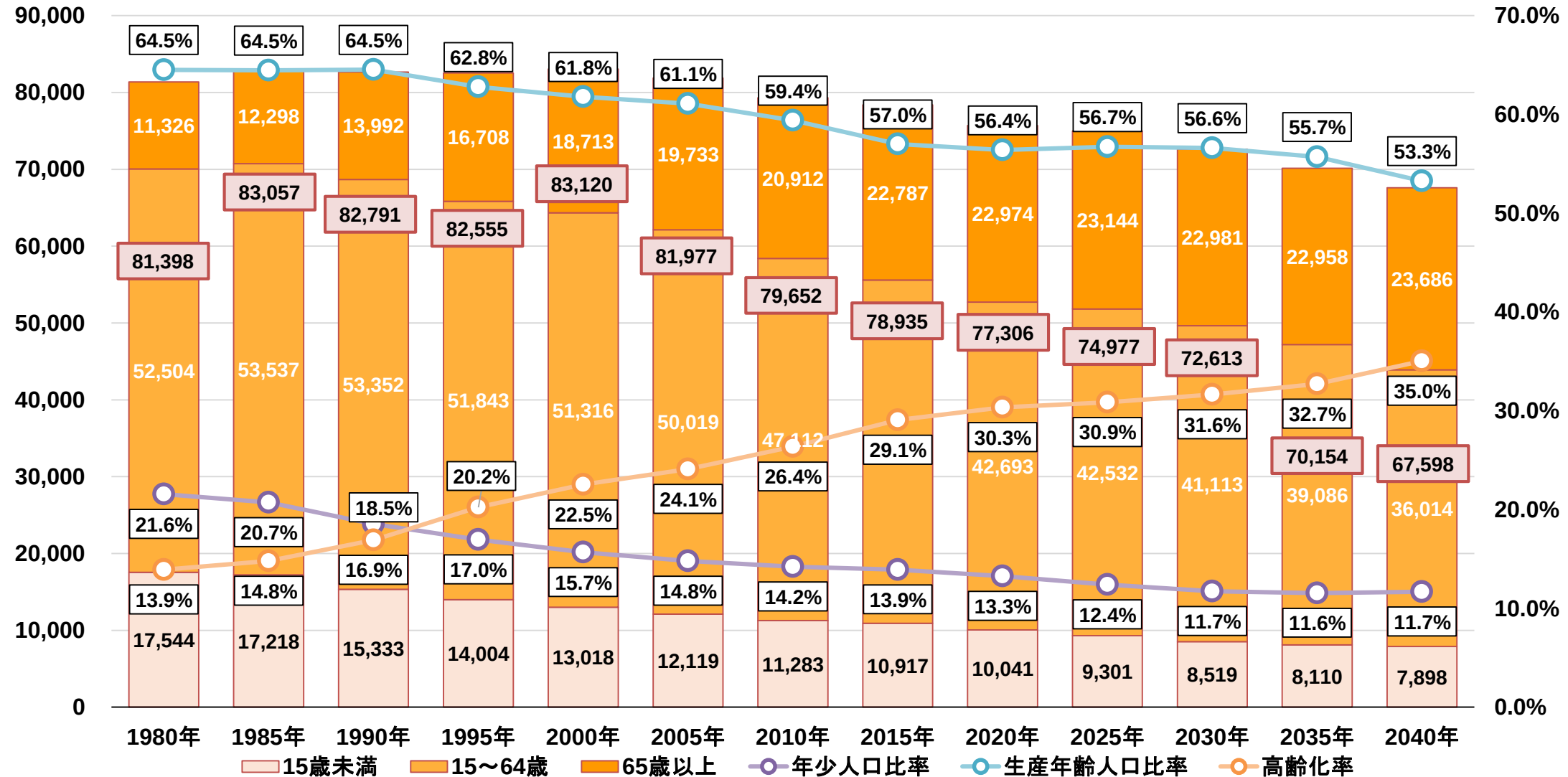
長期ビジョン

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040

2040(令和22)年の福知山市を取り巻く社会環境の変化(予測)

人口減少や少子高齢化の進行などにより、社会環境は大きく変化しています。ここでは、2040(令和22)年に向けて私たちの暮らしに影響を及ぼすと考えられる主な変化を整理します。

人口の変化



出典：2020(令和2)年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」
 ※2025(令和7)年度以降は推計データ。2025(令和7)年国勢調査の確報値が公表された段階で修正を行う予定としています。

2040年に向けて予想される社会の6つの変化

高齢化と生産年齢人口の激減

約35%

総人口に占める65歳以上の比率（3人に1人が高齢者）

-1,300万

2020～40年に減少する生産年齢人口（現役世代）

1971～1974年生まれの人口ボリュームゾーン（団塊ジュニア世代）がすべて65歳以上に達する一方、少子化の加速によって「支え手」の数がかつてない速度で消失。社会の縮小に対応する再設計が急務となります。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）結果の概要」

急激な人口減少だけではなく、AIの進展などによりこれからの社会は大きく変化していきます。

① 深刻な担い手不足

物流・建設・製造・福祉・医療・地域活動など、様々な分野で担い手不足が進み、事業継続やサービスの維持が難しくなります。

② 医療・介護ニーズの変化

人口減少により医療需要の総量は減少が見込まれる一方、高齢化により医療・介護のニーズは多様化します。ビジネススクエアラーの増加や医療・介護離職の拡大も懸念されます。

③ ライフスタイルや価値観の多様化

経済的不安や単身世帯の急増を背景に結婚や出産に対する考え方を含め、多様な生き方や価値観が広がります。

④ 外国人住民の増加と多文化共生

外国人住民の流入が進み、地域社会を支える大切な一員として、地域に定着していきます。

⑤ AIの進展

生成AIの高度化に加えて、ロボット、自動運転、ドローンなどのフィジカルAIが進展し、暮らしや産業の現場で活用が広がっていきます。

⑥ 公共施設とインフラの老朽化

老朽化への対応や維持管理が課題となり、気候変動への対応も求められる中で、行政サービスの維持が難しくなるおそれがあります。

2040年に向けて見えてきた暮らしの課題 2040年市民会議「100の提言」より集約

2025（令和7）年度に「地域の未来予測」を基に将来の課題を検討した「2040年市民会議」では、将来の福知山市で起こり得る暮らしの課題について意見が出されました。市民会議の提言（福知山市2040くらしのビジョンー2040年市民会議からの100の提言ー）をもとに、2040年に向けて、特に意識すべき課題を6つに整理しました。

福知山市2040 くらしのビジョン ー100の提言ー

人口減少と社会変容が進む中、地域で実際に直面するであろう共通の社会課題を6つの主要分野から提言。

文化

- **継承機会の減少**：伝統・文化を受け継ぐ担い手や機会の減少
- **地域への愛着の低下**：地域とのつながりや誇りの希薄化
- **文化活動の縮小**：活動の場や文化施設の維持・活用の困難化

仕事

- **生活利便性の低下**：商業環境の変化に伴う買い物環境や身近なサービスの衰退
- **若年層の市外流出**：若者や女性に選ばれた地元就職の選択肢不足
- **地域資源の活用不足**：農地や空家など地域資源が十分に活用されない状況

共生

- **つながりの希薄化**：地域や世代を超えた交流機会の減少
- **多文化共生の停滞**：外国人住民への言語や教育支援の不足
- **居場所・参加機会の減少**：安心して関われる場や機会の減少

交通・インフラ

- **移動機能の低下**：公共交通の縮小や移動手段の不足
- **社会基盤の老朽化**：公共施設やインフラの更新需要の増大
- **公共サービスの持続性**：人口減少により施設やサービスの維持が難しくなる

学び

- **地域で育つ環境の低下**：人口減少による交流や学びの機会の減少
- **遊び、学べる居場所の不足**：子ども・若者世代が、安心して遊び、学べる居場所の不足
- **学びの選択肢の減少**：子ども・若者世代の学びの機会や選択肢の減少

安全

- **福祉ニーズの多様化**：高齢者・障害のある人・子ども等、それぞれの困りごとの多様化
- **医療・介護の維持不安**：将来的な医療・介護体制の維持と、日々の健康づくりへの不安
- **災害・生活安全リスク**：災害や鳥獣被害、交通安全など、高まる日常の安全リスク

2040(令和22)年に向けてめざす福知山市の将来像

自治基本条例の自治の4原則「人権尊重」「男女平等」「情報の共有」「参画と協働」と2040年市民会議から見てきた暮らしの課題を踏まえ、福知山市がめざす将来像を6つに整理しました。

本構想では、この6つの将来像を政策分野として位置づけ、人口減少社会にあってもまちの活動を維持・向上させるため、市民と市が共に考え、共につくり、共に実行するまちづくりを進めます。

1 誰もがこのまちの一員として 尊重し合う共生のまち

市民一人ひとりが互いを認め合い、多様な価値観や文化を尊重しながら、地域の担い手として支え合うことで、誰もが自分らしく暮らし、地域とのつながりや居場所を実感できる社会を育みます。

目標指標： 今後設定

2 福知山の記憶と個性を 未来につなぐまち

福知山の歴史や文化、スポーツ、豊かな地域資源を大切に守り育て、その魅力を市内外へ発信しながら、市民がまちへの誇りや愛着を持ち暮らし続けられる環境をつくりま

す。
目標指標： 今後設定

3 こども・若者が育ち、 誰もが学び続けられるまち

安心してこどもを産み育てることができ、こどもや若者が健やかに成長し、誰もが学びや挑戦を通じて自らの可能性を広げられる環境を整えます。

目標指標： 今後設定

4 暮らしを支える産業と、 賑わいあふれる持続可能なまち

地域産業の持続的発展や、脱炭素の取組の充実を図り、多様な人材が活躍できる環境を整えることで、地域の活力が循環するまちづくりを進めます。

目標指標： 今後設定

2040(令和22)年に向けてめざす福知山市の将来像

5 人とまちをつなぐ 暮らしの基盤が整うまち

道路や河川、上下水道などのまちの基盤を適切に維持するとともに、利用しやすい公共交通の充実を図り、誰もが快適に移動し暮らせる環境を支えます。

目標指標： **今後設定**

6 いのちと暮らしを支え、 安心して暮らせるまち

防災・医療・福祉などの取組を充実させ、必要な支援が必要な人に届く仕組みを整えることで、誰もが安心して暮らし続けられる地域を育みます。

目標指標： **今後設定**

2040年市民会議の提言では、福知山市の記憶や個性を未来につなぐ視点から「文化」が最初に置かれています。本構想では自治基本条例に基づく総合的な市政運営の指針として、政策分野を再整理し、誰もがこのまちの一員として尊重され、参画できることをまちづくりの土台に据えるため「共生」を最初に位置付けています。そのうえで、「文化」を2番目に位置づけ、福知山らしさや市民の誇りを未来につなぐ重要な分野として継承しています。

みんなで行くまちづくり

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040

まちづくり構想
施策体系図

政策分野	施策分野	施策
1 誰もがこのまちの一員として 尊重し合う共生のまち	1 市民協働	① 多様な主体が参画する地域づくりの推進 ② 持続可能な地域コミュニティの形成
	2 多文化共生	① 外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進 ② 外国人住民が安心して暮らせる生活環境の充実
	3 人権尊重	① 互いの人権を尊重し認め合う環境づくりの推進 ② 多様な人権課題への相談支援の充実
	4 男女共同参画	① 性別等に関わらない一人ひとりの人権の尊重 ② あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の推進
	5 移住・関係人口	① 福知山市への新たな人の流れの創出 ② 地域と多様な人材をつなぐ関係づくりの推進
2 福知山の記憶と個性を 未来につなぐまち	1 文化芸術	① 文化芸術に親しみ参加できる機会の充実 ② 文化芸術活動の継承と地域活性化の推進
	2 文化財	① 文化財の計画的な保存と継承 ② 文化財を活かした地域づくりの推進
	3 スポーツ	① 多様な世代が参加できるスポーツ機会と環境の充実 ② 特色あるスポーツ資源を通じた交流と地域活性化の推進
3 こども・若者が育ち、 誰もが学び続けられるまち	1 妊娠・出産・子育て	① 切れ目のない妊娠・出産・子育て相談支援の推進 ② 課題を抱えるこどもと家庭の状況に応じた支援の推進 ③ 地域をはじめ様々な関係者がともにこどもと子育て家庭を支える環境づくり
	2 保育・幼児教育	① 多様なニーズに対応した保育・幼児教育体制の充実 ② こどもの育ちを支える質の高い保育・幼児教育の推進
	3 学校教育	① こども一人ひとりの可能性を伸ばす学びの充実 ② 家庭・学校・地域が連携した教育環境づくり
	4 社会教育	① 公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進 ② こどもの放課後活動や学習支援、居場所づくりの充実
	5 大学・高等学校	① 高校・大学と連携した人材育成と地域課題解決の推進
4 暮らしを支える産業と、 賑わいあふれる持続可能なまち	1 商工業	① 地域産業の持続的な発展と競争力強化 ② 企業立地と産業基盤の充実
	2 観光	① 福知山城を起点とした観光資源の磨き上げと市内周遊の促進 ② 官民連携による誘客・滞在・消費拡大の推進
	3 農業	① 地域農業と農地を守る持続可能な農業の推進 ② 地域資源を活かした農村の多面的機能の維持・発揮
	4 林業	① 循環型の森林整備と森林資源の活用促進 ② 森林保全と治山による災害に強い地域づくり
	5 脱炭素	① 再生可能エネルギーの活用と省エネルギーの推進 ② 市民・事業者・地域と進める脱炭素まちづくりの推進

5 人とまちをつなぐ 暮らしの基盤が整うまち	1 道路	① 道路の計画的な維持管理と、橋りょうの予防保全型維持管理の推進による長寿命化 ② 暮らしと地域を支える道路ネットワークの形成
	2 河川	① 流域全体で取り組む治水対策の推進 ② 市街地や地域を守る総合的な浸水対策の推進
	3 上下水道	① 安定した上下水道サービスの提供 ② 災害に強い上下水道基盤の整備
	4 公共交通	① 持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの形成
	5 居住環境基盤	① 適正な土地利用と土地情報の整備 ② 公園・公営住宅など誰もが暮らしやすい住環境の整備
6 いのちと暮らしを支え、 安心して暮らせるまち	1 防災・消防・救急	① 災害に強い地域防災体制の構築 ② いのちと暮らしを守る消防・救急体制の充実
	2 健康づくり・医療	① 健康づくりと疾病予防の推進 ② 安心して医療を受けられる環境の充実 ③ 地域で安心して暮らし続けるための医療・福祉・介護連携の強化
	3 地域福祉	① 互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進 ② 複雑化・複合化する困りごとに対応する包括的な相談支援の充実 ③ 地域ぐるみの見守りと生活支援の充実
	4 高齢者福祉	① 高齢者の介護予防・社会参加と生きがいの推進 ② 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進
	5 障害者福祉	① 障害のある人の地域生活の支援と自立の促進 ② 障害のある人の就労と社会参加の促進
	6 防犯・交通安全 ・生活安全	① 犯罪のない安全・安心な地域づくりの推進 ② 交通安全思想の普及と人優先の交通安全対策の推進 ③ 空家等の適正管理による安全な生活環境の確保 ④ 快適な生活環境の保全
	7 循環型社会	① ごみ発生抑制と資源循環の推進の促進 ② 持続可能なごみ処理体制の確保

7 持続可能な行財政運営を進める

限られた財源・人材、公共施設等を効果的に活用するとともに、デジタル技術やA Iの活用を進め、6つの政策分野を支える持続可能な行政サービスの提供を図ります。

みんなで取り組むまちづくり ～自治基本条例推進委員会より～

自治基本条例推進委員会では、2022(令和4)年度から2025(令和7)年度にかけて、「市民懇談会からの21の提案」の具体化に向けた検討が行われてきました。検討の中では、人と人とのつながりの重要性や、孤独・孤立、情報の届きにくさ、担い手不足など、具体化に向けた多様なアイデアが出されました。

一方で、提案を実現していく上での課題も明らかになりました。特に、担い手や人材の確保、地域ごとの状況の違い、誰が主体となって取り組むのかという役割分担の不明確さ、議論を実行段階へ移すための体制や仕組みの不足が課題として挙げられました。これまでの議論を踏まえ、21の提案を一人ひとりができることから始め、地域の中で少しずつ広げていけるよう5つのテーマに整理しました。

1

「ちょっとした気遣い」で声をかけ合い優しさの輪を広げよう

#ちょっとした気遣いで助け合う

●みんなで取り組むこと

一人暮らしのお年寄りや、学校や子育てなどで悩んでいる人が一人で寂しい思いをしないように、ご近所同士で「最近どう？」と声をかけ合ったり。そんな「ちょっとした気遣い」が広がるやさしいまちにしていこう。

2

お気に入りの福知山をみんなで「シェア」しよう！

#みんなでまちのファンを増やす

●みんなで取り組むこと

お気に入りのお店や景色・イベント等、福知山の「いいな」と思うことを家族や友人に話したり、SNSで発信したり。身近なところから福知山の魅力を伝えていこう。

3

学校以外にも居場所を！
好きや得意でつながるあたたかな居場所をつくろう

#学校外にも安心の居場所を

●みんなで取り組むこと

好きなことや得意なことをきっかけに、みんなが安心して過ごし、のびのび学んだり、悩みを話したりできる場所をみんなでつくろう。

4

「やってみたい！」が広がる、楽しい地域活動を増やそう

#楽しみながら続けられる活動へ

●みんなで取り組むこと

「やってみたい」「楽しそう」という気持ちを大切にしながら無理なく参加できる地域活動を広げていこう。あわせて、一人ひとりが、自分らしく力を発揮できる環境をつくっていこう。

5

福知山で働く・挑戦する！
「やってみたい！」を応援する福知山へ

#ずっと住み続けたい
・戻りたいまち

●みんなで取り組むこと

福知山で暮らす人も、一度まちを離れた人も、「このまちが好き」「また帰ってきたい」と思えるように。みんなでまちの魅力を育みながら、働くことやチャレンジにワクワクできるまちをつくっていこう。

市民懇談会からの21の提案

1	生活実感を入り口に、地域のことを「自分ごと」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう
2	学校だけではない学びの場をつくり、「生きる力」と「困難に対するしなやかさ」を育もう
3	「子育ての話」を気軽にでき、先入観や「あるべき論」にとらわれず、一人ひとりの個性を生かした子育てができる環境をつくろう
4	障害のある人や様々な悩みを抱え孤立しがちな子どもや家族に市民どうしが互いに関心を持ち、手を差し伸べ、誰も孤立させない環境をつくろう
5	学び続けたい大人たちが、互いに学び合い、教え合う環境をつくり、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくろう
6	動画やデジタルを活用した「ICT教育」を推進し、一人ひとりの状況にあわせたきめ細やかな学びを実現させると同時に、生きる力を集団で学ぶ、成熟した学びをつくっていかう
7	福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう
8	子育てを地域全体でサポートすることで働く人が住みやすいまちをつくろう
9	多様な働き方、働く目的にこたえる“しごと”と“人”をつなぐ仕組みをつくろう
10	福知山市に住みたい希望をかなえられる働く場の確保を大学や企業とも連携しながら、実現していかう

11	意欲ある起業家や地域を支える経営者の挑戦と創意工夫を、まちぐるみでサポート、育成していかう
12	福知山市の魅力、強みを生かして、儲かる観光業、農林畜産業をめざして盛り上げよう
13	福知山市の歴史、自然、文化などの魅力を日本中、そして世界にむけてアピールしていかう
14	担い手が少なくなってきた時代に対応し、自治会などの活動を見直し、開かれた運営を行っていかう
15	「やらなければならない」地域活動から、「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていかう
16	自動車がなくても、買い物や通院に支障なく生活ができる工夫、仕組みを作ろう
17	身近な場所に拠点をつくり、様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう
18	医療や介護をできる限り必要とせず、健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう
19	一人ひとりが楽しみながら、様々な場で力を発揮することができる環境をつくろう
20	一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援をできる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう
21	独居高齢者、老々介護、介護離職など、様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みをつくろう

施策分野

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040

施策分野

1

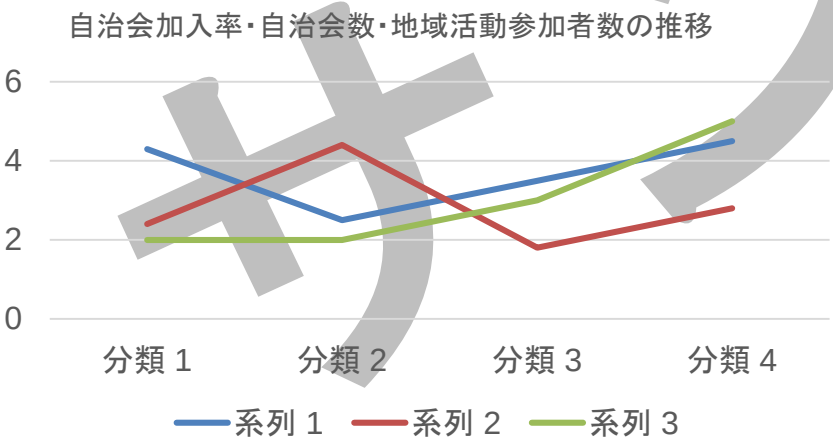
市民協働

成果指標

指標名 今後設定予定

現状と課題

自治会活動、地域行事、見守り、環境美化などは、地域の暮らしを支える基盤として機能してきました。一方で、人口減少や高齢化により、自治会加入率の低下、役員の固定化、担い手不足が進み、地域活動の維持が難しくなっている地域もあります。今後は、地域ごとの人口構成や活動状況を踏まえ、負担が一部の人に集中しない地域運営へ転換することが必要です。若い世代、転入者、事業所、学生、関係人口など、多様な主体が関わりやすい仕組みづくりが求められます。



キーワード

協働 自治会 地域活動 担い手の負担

全施策分野については第1回審議会当日に配布いたします。
第2回以降の審議会でご意見等をいただきます。

施策

施策① 多様な主体が参画する地域づくりの推進

若者、転入者、学生、事業所、関係人口などが地域活動に関わりやすい仕組みを整え、対話や情報共有、コーディネート機能を通じて市民主体の地域づくりを進めます。

施策② 持続可能な地域コミュニティの形成

自治会、区長、民生委員など地域を支える担い手の負担軽減や役割分担の見直しを進め、地域に応じた支え合いの仕組みを再構築します。

関連計画

—

みんなで取り組むこと

- ・地域のイベントに参加してみよう。
- ・ごみ出しや散歩のついでに近所の方にあいさつしてみよう。

#ちょっとした気遣いで助け合う

#ずっと住み続けたい・戻りたいまち

次期まちづくり構想（案）

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040
